

【R4:情-1】官民連携による狛江駅周辺歩行者空間活用可能性調査 (実施主体:東京都狛江市)

狛江市基礎情報(R4.12.1時点)
 ・人口:81,458人
 ・面積:6.39km²

【事業分野:道路・エアーマネジメント】【対象施設:駅周辺市道】【事業手法:歩行者利便増進道路(ほこみち)制度】

調査のポイント

狛江駅周辺エリアの滞在性の向上と賑わいの創出に向けた官民連携による歩行者空間の活用に向け、当該エリアにおける歩行者利便増進道路(ほこみち制度)の導入を念頭に、主に歩行者中心の空間整備に向けた具体的な方策や、ほこみち運用後の事業主体、収益化に向けた事業スキーム等について、以下の3つのポイントを中心に調査・検討を行った。

- 狛江駅周辺の市道や民地を活用した社会実験を実施し、歩行空間整備後の道路利用のニーズ把握、課題整理
- 歩行空間整備後を想定した歩行者の快適性や安全性の検証、滞留状況の把握
- ほこみち運用後において公共空間の管理・活用を行うための組織体制、官民連携スキーム等の整理

事業/施設概要

■ 本エリアの現状と課題

- ・ 狛江駅は市の玄関口であり、1日約3万6千人の利用があるものの、駅周辺の歩行空間は常に自転車と歩行者が行き交い、また滞留できる空間もないため快適な環境とはいえない。
- ・ しかしながら、令和5年度に駅高架下商業施設(小田急マルシェ)と改札周辺の改修が予定されており、これを契機に、これらの民地と隣接する周辺市道が一体となった空間で歩行者の賑わいと滞留を創出することを目的に、周辺市道へのほこみち制度の導入を計画している。
- ・ この事業では、鉄道や地域の事業者等の民間活力による駅周辺の賑わいと滞留空間の整備、継続的な運用を図る手法としてのほこみち制度の活用可能性を調査する。

■ 調査対象区域



調査結果① 官民連携協議会の組成

- ・ 狛江駅周辺の歩行空間の方向性の検討にあたり、ほこみち制度とエアーマネジメントの導入を見据え、駅周辺で活動するまちづくり団体や商業関係者、地域住民、地権者、有識者等による「狛江駅周辺の快適な歩行空間の創出に向けた官民連携協議会」を組成し、全6回の会議を開催した。
- ・ 協議会は、R4.10月の社会実験の実施に向けて近隣住民や関係者等の調整や情報共有を行った。
- ・ また、道路空間の“作り方”(=道路デザイン)と“使い方”(=管理運営)について検討を行った。



目的・これまでの経緯

【本調査の目的】

- ・ 狛江駅周辺市道へのほこみち制度の導入に向けた、道路等の公共空間の利用ニーズの把握や課題整理、歩行者の安全性の検証、周辺エリアの管理・活用を行うための組織体制、官民連携スキーム等の整理を目的とする。
- ・ 本調査に必要な情報を収集するため、10月に社会実験を実施した。

【当該エリアにおけるこれまでの取組み、経緯】

- ・ R2.10~11月/R4.11月 地域の事業者が道路占用に関するコロナ特例によるテラス営業を実施(泉の森テラス)
- ・ R4.3月/9月 地域団体コマエノミライがマルシェを開催(狛江Market)
- ・ R4.6月 小田急マルシェのリニューアルに合わせた周辺市道の整備と整備後の利活用に関する覚書を狛江市⇄小田急で締結



